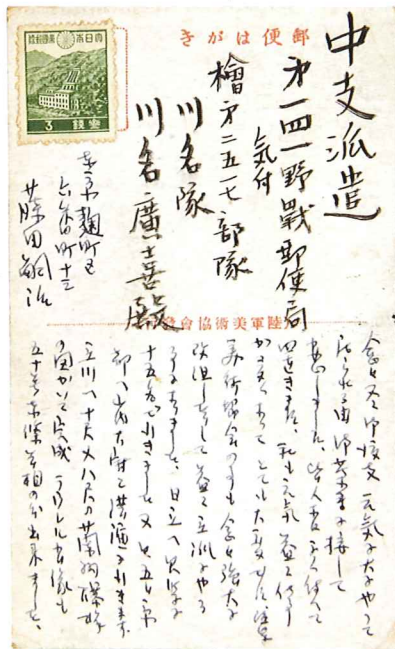




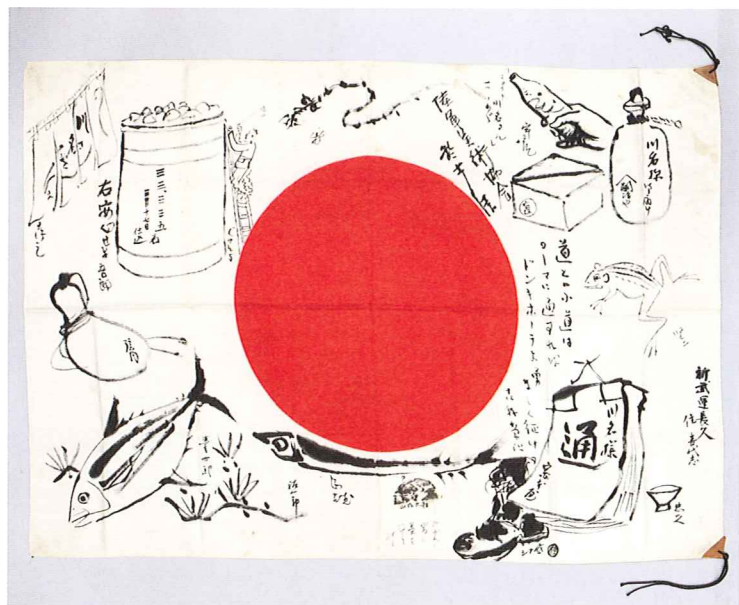
口絵⑤ はがき 戦地の廣喜に、洋画家の藤田嗣治から送られたもの。昭和19年(1944)5月 (本文63ページ参照)



口絵③ 出征の朝 川名廣喜と妻恵以と長女恵美 昭和19年(1944)2月 (本文58ページ参照)



口絵⑥ 絵画 廣喜の作品。制作年不詳 (本文64ページ参照)



口絵④ 日の丸寄せ書き 廣喜の出征に際し、陸軍美術協会の会員から贈られたもの。昭和19年(1944) (本文59ページ参照)

## 資料紹介

# ある洋画家の足跡

——川名廣喜旧蔵資料——

昭和館学芸部

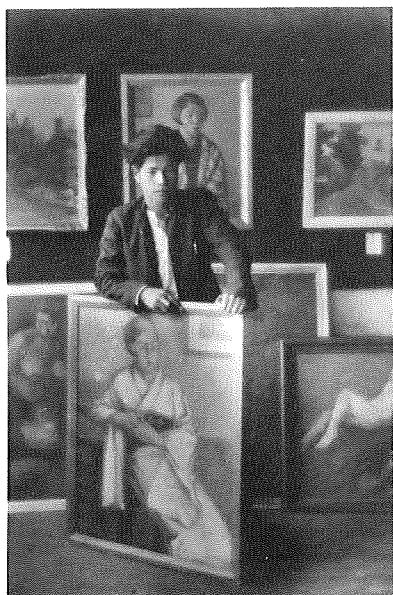
昭和館が収集した資料のなかには、個人の足跡をたどることができる一括資料を遺族から寄贈いただく場合がある。今回は陸軍報道画家としての経験もある、川名廣喜（かわなひろき）氏（以下敬称略・共通）旧蔵資料を紹介したい。これらの資料は、平成二十二年（二〇一〇）七月に、廣喜の長女の瀬下（旧姓川名）恵美から寄贈を受けたものである。

川名（旧姓高田）廣喜は山口県下関市に生まれ、中学校卒業後長門清末藩主の直系である毛利元忠の家に住み込み、三男の忠政の家庭教師を二年務めていた。（のちの廣喜の最初の応召中、隊長を務める部隊に忠政が陸軍二等兵として入隊することになった）画業の才能を見込まれて、東京美術学校図画師範科（現・東京藝術大学美術学部）入校に際して毛利家より援助を受けたものと思われる。在学中の昭和七年（一九三二）には、第一三回帝展に初入選するなど才能を開花させた。同校で助教授を務めていた伊原宇三郎と出会い、のちにわたるまで交流をもつこととなる。

東京美術学校卒業後、青森県立師範学校教諭としての職を得たが、昭和十年頃に陸軍に入営し、除隊後予備役将校となった。日中戦争勃発直後の昭和十二年九月に応召され、中隊長として中支およびソ満国境を転戦。昭和十五年末に帰還した。出征中も教職は在職扱いになってお

り、除隊の翌年の昭和十六年三月には青森県から出向の形で東京府立第二十一中学校（現・東京都立武蔵丘高等学校）に転じたが、約一年で退職している。ここで京橋区（現・中央区）西八丁堀の材木商佐貫屋を営む、川名鉄右衛門の長女恵以と結婚、養子縁組し、以降川名姓を名乗る。

① 自作品と廣喜 撮影年不詳 【資料目録90】



①

画家としての活動では、陸軍美術家協会会員、文化奉公会幹事を務め、自らの実戦経験を元に積極的に戦争画にも取り組み、多くの展覧会で作品を発表したようであるが、廣喜の作品をはじめとした遺品は西八丁堀

にあった自宅アトリエが罹災したため、多くが失われることとなった。一方で、雑誌の表紙絵や挿画を描くなど、商業美術家としての創作活動も続けていた。

昭和十七年六月には東京府立第二十二中学校（のちの都立城南中学校（旧制）、東京都立城南高等学校、現在は廃校）の教練教官として赴任するが、陸軍中尉の軍服姿で現れたという。新聞に廣喜の作品が載ることもあり、軍事教練の教官と絵というおおよそ結びつかない組合せであった。生徒が連れ立って展覧会を見に美術館へ足を運んだ。昭和十八年三月には中国・南京城内の西本願寺英霊奉安所に壁画を献納に訪れている。壁画七点、壁彫二点が制作され、廣喜を含む文化奉公会の廣喜を含む四名が納めた。この際、廣喜は『戦車戦』と題した作品を納めているが、千葉の戦車学校に数度足を運び取材したという。その後陸軍報道画家として各地を取材して回ったが、帰国前に長女恵美が誕生している。

昭和十九年二月に二度目の召集を受け、従軍中の昭和二十年一月二十八日に中国九江（現・中華人民共和国江西省）にて戦死した。

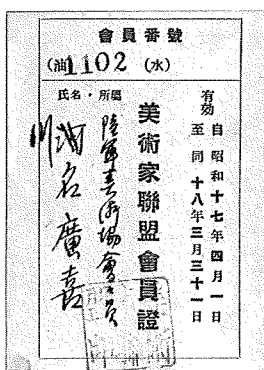
廣喜の年譜を以下に記す。これは、廣喜が教練教官として勤務していた東京府立第二十二中学校の教え子を中心となって編んだ『川名廣喜遺作集』<sup>①</sup>によった。

## 川名（旧姓高田）廣喜先生年譜

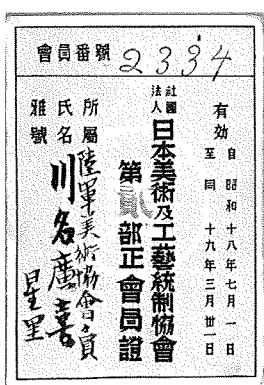
明治四十三年 十月十八日 山口県下関市大字小月町一七二四にて出生  
大正 十二年 三月 山口県豊浦郡小月尋常小学校 卒業

## 昭和

|                                              |        |                                         |
|----------------------------------------------|--------|-----------------------------------------|
| 三年                                           | 三月     | 山口県立長府中学校 卒業                            |
| 五年                                           | 四月     | 東京美術学校図画師範科 入学                          |
| 六年                                           | 九月十八日  | 満州事変勃発                                  |
| 八年                                           | 三月     | 東京美術学校卒業（在校中の七年第一三回帝展初入選）               |
| 八年                                           | 四月     | 青森県立師範学校教諭                              |
| （同師範学校在任中は星一雄先生が主事であった。星先生はのちの府立二十二中の校長である。） |        |                                         |
| 十年                                           | 十月（推定） | 福岡県小倉・陸軍歩兵第十四連隊入隊（甲種幹部候補生・第一回生）         |
| 十二年                                          | 七月七日   | 日中戦争勃発                                  |
| 十二年                                          | 九月     | 中国大陸に渡り各地に転戦                            |
| 十五年末                                         | 内地に帰還、 | 中尉で除隊                                   |
| 十六年                                          | 三月三十一日 | 東京府立第二十一中学校教諭（図画・書道）                    |
| 十六年                                          | 十二月八日  | 太平洋戦争勃発                                 |
| 十七年                                          | 二月二日   | 川名恵以と結婚（高田姓より川名姓となる）                    |
| 十七年                                          | 四月二十日  | 東京府立第二十一中学校退職                           |
| 十七年                                          | 六月二十九日 | 東京府立第二十二中学校（後の旧制都立城南中学校）教官（教練）          |
| 十八年                                          | 三月     | 中国南京に壁画奉納のため出向（西本願寺英霊奉安所）               |
| 陸軍報道画家として九江、漢口、武昌、洞庭湖、沙市、荊州、宜昌など各地スケッチ       |        |                                         |
|                                              | 六月八日   | 長女・恵美誕生                                 |
|                                              | 七月末    | 中国より帰国、記録絵画の制作に入る。                      |
| 十九年                                          | 二月二十三日 | 召集、中国・慮（ <sup>マヤ</sup> 慮）山警備中隊長         |
|                                              | 十二月    | 報道班に転属                                  |
| 二十年                                          | 一月二十八日 | 九江（揚子江）にて乗船が機雷に触れて戦死、享年三四歳 <sup>②</sup> |



②



③

② 美術家連盟会員証 昭和十七年 【資料目録10】  
肩書きとして「陸軍美術協会々員」と書き添えられている。

## 一 画家としての活動

一覧を別表に掲載するが、テーマに沿って資料の一部を紹介する。

- 一 画家としての活動を示すもの
- 二 自身の個人生活（就業、結婚等）に関わるもの
- 三 従軍に関するもの
- 四 その他

今回寄贈を受けたものは廣喜の足跡を遺すものとしてはごく一部分であるが、おそらく昭和十九年の出征後、元々別荘として使用していた千葉県君津郡湊町（現・富津市）に疎開させた荷物に含まれて罹災を免れたものもあつたと想像される。廣喜の妻、恵以がこれらを多年にわたり保存していたのである。

受贈資料は四つの資料群として大分できる。

## ③ 社団法人日本美術及工芸統制協会第貳部正会員証 【資料目録11】

制作に必要な画材も統制が行われ、同協会を通じて配給された。廣喜の雅号が「星里」であると確認できるが、雑誌の表紙絵や絵葉書作品の多くには「HIROKI」（書体や大文字小文字にはバリエーションがみられる）のサインが用いられている。

## 商業作品

廣喜は中学校に勤務している当時も、商業美術作品である雑誌の表紙絵を手掛けていた。そのうち、大日本雄弁会講談社発行『少女倶楽部』昭和十七年九月号から昭和十九年二月号までと、東京・大阪日日新聞社発行『大日本青年』昭和十六年三月十五日号から昭和十八年四月十五日号までの表紙一七点と挿絵一四点の印刷物がスクラップブックに綴られている。

一部の作品は、原画が写真に納められているが、これらの絵画が油彩で描かれたことが確認できる。以下で紹介するような校正刷り、参考写真は雑誌の製作工程上のものであり、本誌が出版されれば破棄される運命であるため、出版史上でも当時の様相を知ることができる好資料である。

なお、館蔵資料から、『少年倶楽部』にも作品が掲載されていたことが確認される。<sup>(3)</sup>

## ④ 『少女倶楽部 昭和十八年十二月号』校正刷り 【資料目録95】

これは、『少女倶楽部 昭和十八年十二月号』の校正刷り（色校正紙）で、「不備の備へ」と題されている。本来の雑誌表紙よりも上質で厚手なコピー紙に印刷されており、「㊦キ」のサインが用いられている。





④



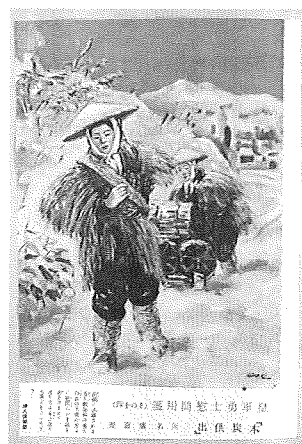
⑤

この作品の掲載された『少女倶楽部』は、当館の平成十三年の特別企画展「苦難を越えてく戦中・戦後を生きぬいた子どもたち」のなかで、「時局とともに変わる雑誌の例」として展示され、ポスター・チラシにも掲載された。作者である廣喜が所蔵していた校正刷りが、その後遺族より寄贈されることになったのは、奇縁というほかない。またほかにも、平成二十四年特別企画展「帰還への想いく銃後の願いと千人針」で、『少女倶楽部 昭和十八年一月号』に掲載された「元日の朝」と題された、陰膳の様子を描いた作品を展示、紹介しているが、この作品もスクラップブックに収められていた。

## ⑤ 写真 【資料目録96】

右の表紙を描く際に、参考とした写真。モデルの少女は鉄右衛門の遠縁にあたり、当時川名家に引き取られて同居していたという。場所は自宅近くの久安橋付近で、八重洲通と思われる。<sup>4</sup>

表紙絵では、細部までかなり写真のとおり描写されている。ただし、背景は街頭ではなく「米国機の標識」というポスターに描き替えられている。



⑥



⑦

## ⑥ 『婦人倶楽部』挿画 【資料目録95】

「皇軍勇士慰問用箋（その十四）『木炭供出』」と題された作品。掲載の本誌で未確認だが、昭和十九年二月号と思われる。前線の兵士を慰問する手紙用の用箋の一部という形態をとっている。本紙印刷で、スクラップブックに貼付されている。

## ⑦ 写真 【資料目録96】

雪の中で薪を載せたそりを引く、二人の女性が撮影されており、裏面には「薪出し」と鉛筆書きされている。上の絵とは、ポーズ（顔がはっきり見えるように描かれている）や背景に相違があり、写真の枝木は画中では俵に描き替えられている。

この写真以外にも、薪を背負う女性等、四枚の写真があり、それぞれの裏面には同様に「薪背負ふ」「山へ行く娘」「バンドを着て荷縄にて薪を背負ふ」「ぼんどり（みの）を作るむすめ 農閑期の副業」と鉛筆書きで記入されている。おそらく北陸地方を取材した数枚の写真を提供され、それを画題として作品を描き上げたものと推察される。

⑧ 名刺 【資料目録58、59、60、64】

廣喜の経歴についても、所属団体や役職について不明な点が多い。断片的ながら手がかりとなるのは、このような名刺である。残存する名刺に記された肩書きを以下に列記する。なお、文化奉公会とは、帰還軍人を会員として結成された団体である。

- a 陸軍美術協会会員 文化奉公会幹事 陸軍中尉 川名廣喜(⑧)
- b 陸軍美術協会会員 文化奉公会幹事 川名廣喜
- c 支那派遣軍總司令部報道部 陸軍中尉 川名廣喜
- d 文化奉公会 川名廣喜

陸軍美術協会会員  
文化奉公会幹事

陸軍中尉 川名廣喜

東京都京橋區西八丁堀一ノ二〇  
電話京橋(五六)二〇五五

⑧

絵葉書 【資料目録77、75、70、72、66、68、76、73、68】

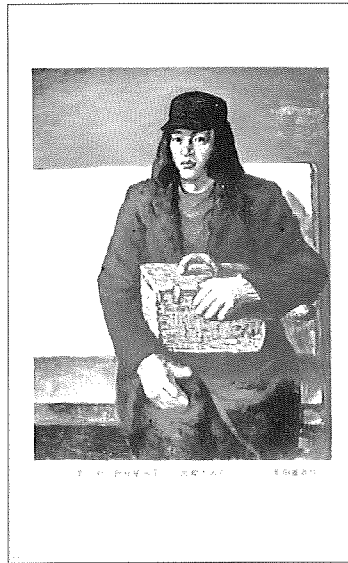
前述のとおり、廣喜の作品の多くは戦火によって失われており、その制作の全貌については不明である。ただ、一部の展覧会等出品作品については、このように絵葉書などの印刷物として確認できる。その一部を紹介する。

⑨ 「出稼ぎの人」 (年号未表記) 第四回一軌社展出品

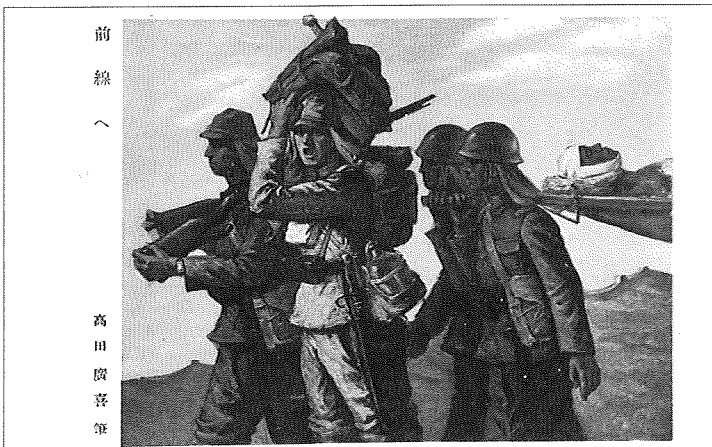
高田廣喜作



⑩



⑨



⑪

⑩ 「進撃」 昭和十六年 出征軍人美術家作品展覧会 高田廣喜作

⑪ 「前線へ」 (年号未表記) 陸軍美術協会発行 高田廣喜筆(第二回聖戦美術展 昭和16年7月1日〜20日 於…東京・日本美術協会)

⑫ 「薄暮(攻撃)」 昭和十七年 美術工芸会 朝日新聞社主催大東亜戦争美術展覧会 川名廣喜画

⑬ 「黎明(露宮)」 昭和十七年 美術工芸会 朝日新聞社主催大東亜戦争美術展覧会 川名廣喜画

⑭ 「第一回大東亜戦争美術展 昭和17年12月3日〜27日 於…東京

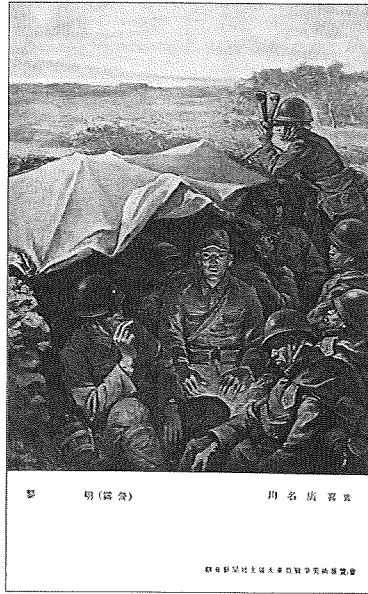
⑮ 「前線へ」 高田廣喜筆

⑯ 「薄暮(攻撃)」 川名廣喜画

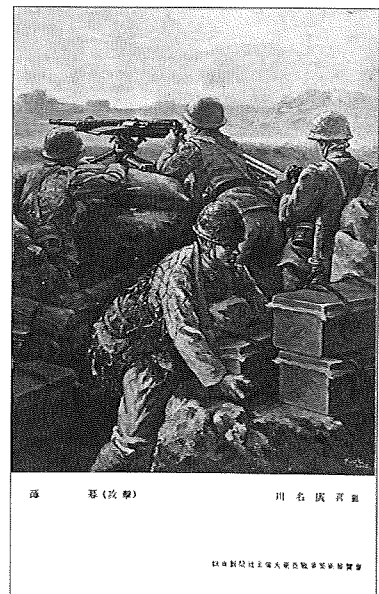
⑰ 「黎明(露宮)」 川名廣喜画



⑮



⑬



⑫



⑭



⑯

府美術館

⑭「闘魂」 昭和十八年 陸軍美術展覧会 川名廣喜作 (陸軍美術展

昭和十八年3月5日〜14日 於…日本橋三越)

⑮「兵習作」 (年号未表記) 決戦美術展覧会 川名廣喜 (国民総力決戦

美術展 昭和十八年9月1日〜16日 於…東京都美術館)

⑯「洞底湖鷺進船団」 昭和十八年 第二回大東亜戦争美術展覧会出品

川名廣喜作

①⑥「洞庭湖驀進船団」については、スクラップブックの中に写真入りの新聞記事が含まれていた。<sup>①⑥</sup>（○部分は当時の伏字）

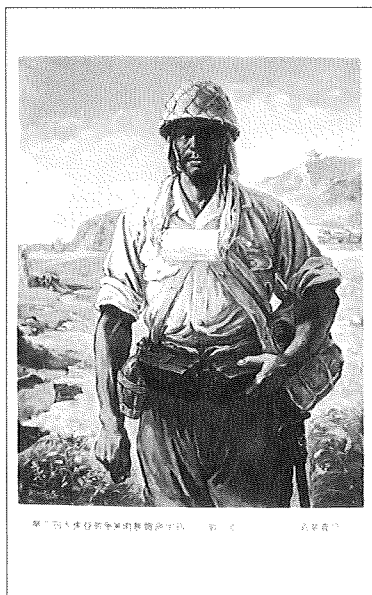
天覧「洞庭湖驀進船団」故澤井隊長と従軍画家

今次湖南に展開された大進攻作戦に○○水上突進部隊に協力。神速なる舟艇機動力をもつて敵第九戦区防衛陣崩壊の端緒を開き、長沙岳麓山攻撃には機雷原を突破して○砲揚陸の偉功をたてる等猛烈敢闘中遂に○○で壮烈護国の鬼と化した澤井甲子太郎大尉（愛知県）と従軍画家をめぐる後日譚がある

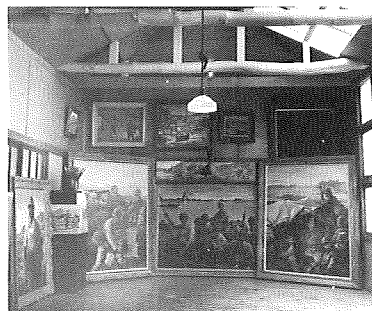
話は遡る―昨夏の湖南懺滅作戦にあたり従軍画家として遠く第一線に

①⑦「戦友」 昭和十八年 第二回大東亜戦争美術展覧会出品 川名廣喜作

（①⑥、①⑦） 協賛会員、第二回大東亜戦争美術展 昭和十八年十二月八日～十九年一月九日 於…東京都美術館



①⑦



①⑧

在り、将兵と労苦を供にしていた陸軍美術協会会員川名廣喜画伯は、常時○○で澤井隊長の指揮する舟艇起動部隊の果敢な活躍振りを目のあたりにし澤井隊長以下部下の一人一人を克明に写生、帰還後約一ヶ月を費してその真にせまる舟艇部隊の敢闘振りを彩管に物し『洞庭湖驀進船団』として第二回大東亜戦争美術展覧会に出品。畏くも天覧の栄に浴したのである川名画伯は この後 お召しをうけ目下○○方面に○隊長として活躍中であるが、このほど○○で澤井隊長の壮烈な最期を知り、再会の機会があったら見せようとはるばる持つて来た複写真を眺めながら常時を偲んで次のように語った

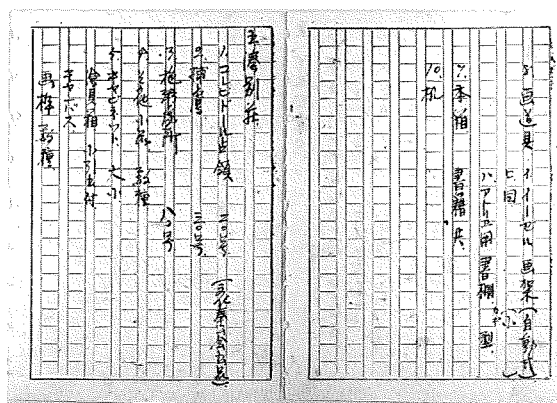
戦争だから戦死するのは当然のことで、またこの上もない名誉といふべきでしょうが、あの元気な澤井隊長の戦死をきいて私には人一倍感慨深いものがあります私の見た澤井隊長は「作戦中の澤井隊長」で戦闘帽の上から日の丸の鉢巻をし米機の轟動下に部下を指揮していた当時の勇姿がうかんで参ります、あの絵には特にその全体、光景より特に一人一人の■に力を入れて描きましたので澤井隊長の顔もよく似ている筈です、展覧会に出して意外に好評を博し天覧の栄を浴しました、澤井隊長にお目にかかりこの写真を御覧に入れて一度その話と想つて邂逅を楽しみにしていましたが、残念でした、私もこんどは本当の軍人で来たのですからその意味でも澤井隊長の弔い合戦をしなければなりません

【写真は出品画「洞庭湖驀進船団」中央立てるが澤井隊長】

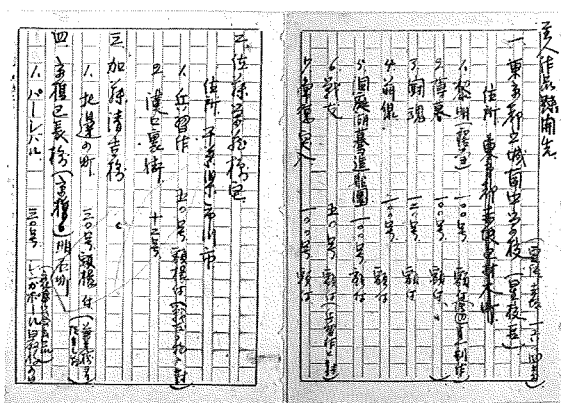
# ①⑧ 写真 【資料目録90】

アトリエに置かれた戦争画。絵葉書にある「薄暮（攻撃）」「黎明（露営）」「戦友」「洞庭湖驀進船団」が確認できる。昭和十八、十九年頃





20



19



22



21

19、20 メモ 【資料目録8】

これらの作品は、恵以の手によると思われる「主人作品疎開先」というメモの中にも存在が確認される。ほとんどの作品が一〇〇号（二六・二〇センチ×一三〇・三センチ）という大作である。このメモによれば戦争画の多くは、廣喜の勤務先である都立城南中学校に移されたようだが、その後の作品の所在は不明である。

21「南京英霊奉安所壁画彫絵葉書」（年号未表記・昭和十八年） 西本願寺南京別院発行、文化奉公会美術部作 【資料目録79】

スクラップブックの中には、作品に触れた新聞記事も綴られている。昭和十八年四月七日付『南京大陸新報』には、この作品に対する廣喜のコメントとして以下のようにある。

近代戦の花形である『戦車戦』を取材したものである。戦場は大東亜戦争の一部を仮想したもので、大陸を取扱ったものとは限らぬが広い戦場には川あり、断崖あり、高地あり、城壁あり、また湿地ありとあらゆる地上の条件をそなへており、我が鉄牛部隊と歩兵が緊密なる協同のもとに次々と敵陣を蹂躪し占領してゆく状況を書いたものである

22 写真 【資料目録90】

アトリエにて、前記の「南京英霊奉安所壁画彫絵」を制作中の廣喜。五〇〇号（横幅三三三・三センチ）とあって、かなり長大な作品であったことが分かる。昭和十七、十八年頃

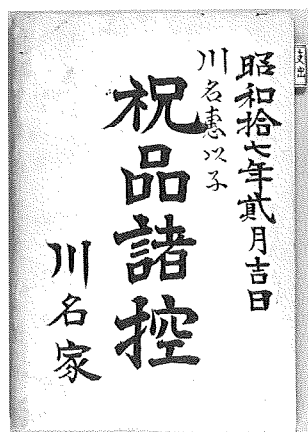
## 二 自身の個人生活（就業、結婚等）に関わるもの

昭和十七年に廣喜が結婚した際の、さまざまな書類が残されている。それからたどれば、二月二日に日枝神社で結婚奉公祭を行い、そのままタクシーで山王下の料亭、幸楽に移動、披露宴を挙げたようである。祝宴には親族のほか、廣喜の師匠筋にあたる洋画家の伊原宇三郎も出席し三三名が参列した。幸楽では「支那料理」（中華料理）が饗されたが、一人当たり五円と豪勢なものであった。

挙式後の二月十五日には参列者を東京劇場への観劇に招待している。时期的にみて、日米開戦より以前から婚礼の段取りは進んでいたと思われるが、日中戦争勃発以降のさまざまな戦時統制下にもかかわらず、式の支度には相当費用がかけられており、大店の長女に婿を取る鉄右衛門の心積もりが感じられる。唯一戦時らしい雰囲気を感じさせられるのは、観劇後「閉場後御夕飯を差し上げます筈なれ共時節柄其の用意も出来兼ね誠に失礼とわ（は）存じ候共時局の国策に順応致し戦時児債券を封入致し置き候」との案内状程度である。

資料は、婚礼の支度に関わる物品購入の領収書も含まれており、家具、着物、婚礼化粧料、タクシー代、

飲食代等、当時どのような準備がなされたかが判明する資料ものである。なお、鉄右衛門は養子縁組にあたり、人を介して廣喜の身辺調査を行ったようである。



②③

### ②③ 祝品諸控 【資料目録23】

婚礼に際して贈られた金品の控え帳。祝儀として現金や切手（商品券）だけでなく、桐たんす、姫鏡台、西洋人形、蓬萊山（蓬萊山にかたどり縁起の良いものを飾った台）、電気スタンドなどの家具、帯留、草履、下駄、ハンドバッグ、旅行用ケース等の装身具のほか、鯉節、ビール、アルバムが贈られており、当時の結婚にあたっての習俗の様子がうかがえる。

### ②④ 写真 【資料目録90】

廣喜と恵以の結婚記念写真。ふたりはモーニングに振袖姿、参列者は羽織袴、モーニング、留袖と、平時と変わらない正装である。結婚奉公祭を挙げた日枝神社での撮影と思われる。昭和十七年二月



②④



②⑤

②5 写真 【資料目録90】

婚礼にあたって用意された品々と贈られた祝儀。昭和十七年二月

三 従軍に関するもの

廣喜が昭和十九年二月に召集された際の資料が残されている。日誌  
〔資料目録93〕にその様子が記されているので抄録する。

昭和十九年二月十九日

午前十時臨時召集令状入手

主だった親籍（戚）及知人先輩に通報す

二十日 制作続行

二月二十一日

陸軍美術協会藤田嗣治、井原宇三郎氏

及学校ノ生徒ト告別式に参列す

夜、（親族一同及び友人と知人、■野氏内、星氏

講談社成田、星野来宅）后六時ヨリ壮行式

を行ふ（我アトリエにて）

二十二日

田舎の父と妹上京、病軀を圧しての上京に

感謝の他はない。

夜田邊少尉、正雄。和田少尉来宅

高野正巳氏来宅

一応の準備丈して就床一時

二月二十三日 五時起床

七時自宅前に於いて隣組及び、生徒の代表  
田邊君等の萬才を受けつゝ出陣す

三輪、成田、宇木、源栄さん等の早朝の見送  
多謝

市川迄、父、栄吉兄、太郎三名同伴

八時半着

九時入門体検査終了後仮編成

（中略）

◎第九野戦補充隊（徳二五〇九部隊）

（中略）

午後七時半帰宅。荷物の整理

（中略）

二十八日

父、家内面会ニ来る。

写真機及夕食持参す

一時半出陣式、直ニ出発

家内、父宮門にて送つてくれる

感慨無量、妻の心中察するに余

りあり。（妻よ、愛児と共に健やかなれ。）

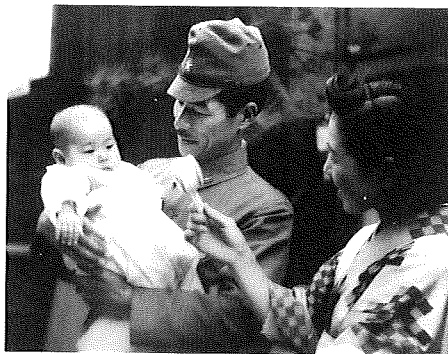
駅着、父、妻と面談僅少 后二時四十分発車

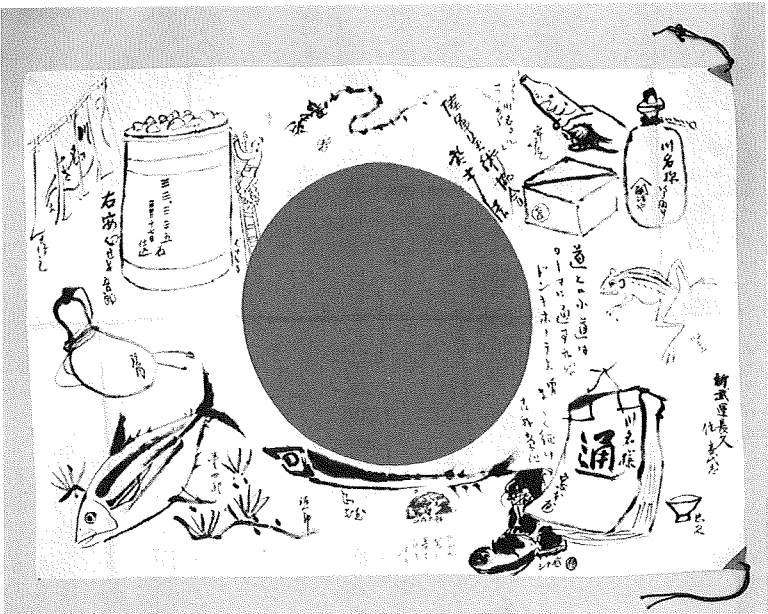
愈々車中の人となる。

山手通過、品川より本線に入る。

二十九日 車中

朝、米原―





27



28

| 位置 | 絵 柄   | サイン   | 作 者   | 備 考       |
|----|-------|-------|-------|-----------|
| 中上 | 龍     | 新     | 本郷 新  | 彫刻家       |
| 右上 | 德利    | 嗣治や   | 藤田嗣治  | 洋画家       |
| 右上 | 銚子    | 宇三郎   | 伊原宇三郎 | 洋画家       |
| 右上 | 升     | 「丸に直」 | 中村直人  | 彫刻家       |
| 右中 | 蛙     | 賢二    | 吉岡賢二  | 日本画家      |
| 右下 | 猪口    | 忠夫    | 吉村忠夫  | 日本画家      |
| 右下 | 通い帳   | 宮本画   | 宮本三郎  | 洋画家       |
| 右下 | 靴     | 「丸に信」 | 栗原 信  | 洋画家       |
| 下中 | みかん   | 山内大尉  | 山内一郎  | 陸軍報道班員、大尉 |
| 下中 | 魚     | 良雄    | 清水良雄  | 洋画家       |
| 左下 | 笹の葉   | 佐一郎   | 田中佐一郎 | 洋画家       |
| 左下 | 鯉     | 豊四郎   | 福田豊四郎 | 日本画家      |
| 左中 | ひょうたん | 弦月    | 矢澤弦月  | 日本画家      |
| 左上 | 暖簾    | たけし   | 林 武   | 洋画家       |
| 左上 | 仕込み樽  | 吾郎    | 鶴田吾郎  | 洋画家       |
| 左上 | 梯子と杜氏 | じゅん吉  | 向井潤吉  | 洋画家       |

日の丸に描かれた絵柄と作者一覧

三十日 五時下関駅着

母、兄、正寛、夏江、芳江、叔母、智

勇の八人に出迎えられプラットにて

五分間歓談：面会出来て何より

安心す。皆元氣にて嬉し

七時三十五分博多着

連絡船 徳寿丸十時出帆

(以下略)

入隊までわずか四日間という間で、慌ただしく出征の準備をすませなければならず、挨拶や来訪が立て続いた様子が伝わってくる。

そして、二十三日の早朝に自宅前で見送りを受けて、千葉県市川の部隊まで三名に同伴されて向かっている。入隊後は中隊長としてすぐに中国へ送られることが伝えられたようだが、営外居住を許されている将校であるので、その日の晩には帰宅していることが分かる。翌日と翌々日も帰宅し、二十六、二十七日は部隊に泊まっている。

二十八日には出勤し列車に乗車するが、この際のわずかな時間に駅頭で父（下関の実父も上京しているが養父の鉄右衛門）と恵以に会ったのが終生の別れとなったのである。列車は廣喜の故郷である下関駅に到着し、母と兄弟と面会している。そして三十日に関釜連絡船に乗船し、日本を発ったのである。

②6 写真 【資料目録90】

出征の日の朝、妻恵以と前年に生まれたばかりの長女・恵美を抱く陸軍中尉の軍服姿の廣喜の写真。おそらくプロカメラマンの撮影によると思われる。この写真は平成二十二年度からの昭和館巡回特別企画展のポスター、チラシを飾っており、出征を取り上げた資料のなかでも多くの来館者の心を打った写真であろう。

②7 日の丸寄せ書き 【資料目録1】

出征に際し、廣喜に贈られた寄せ書き。当時の出征兵士の多くが地域や職場、学校等から贈られたものだが、この旗は、当時の著名画家等による揮毫がなされている。急な召集とあつて、戦地へは伊原の揮毫による国旗を持参したようであるが、その後留守宅に陸軍美術家協会の会員によるこの旗が届けられた。その様子は、戦地の廣喜と留守宅に送られた伊原の書簡からうかがえる。

②8 「日の丸に描いた絵の芸術家氏名」  
『川名廣喜遺作集』より転載。

②9、③0 はがき 【資料目録3】

中国で従軍中の廣喜に、伊原が送ったはがき。先に戦地から挨拶文が届いたようで、その返信のかたちになっている。昭和十八年五月八日付消印。

「此間協会で藤田老はじめ皆に愉快な国旗をかいて貰ひました。相当な連中の画ばかり故恐らく日本一の筈。御宅へ送つておいたからそのうちにそちらへ着くでせう。」とあり、伊原自ら日本一と折り紙を付けている。なお、自身の女性像の印刷絵葉書を用いている。

待望のおたより拝見。御元氣

何よりです。一寸何の方面か見当

が付きませんが、知つてる中支の処に

あてはめて想像してゐます。此

間協会で藤田老はじめ皆

に愉快な国旗をかいて貰ひま

した。相当な連中の画ばかり

故恐らく日本一の筈。御宅へ

送つておいたからそのうちにそち

らへ着くでせう。矢野が帰つ

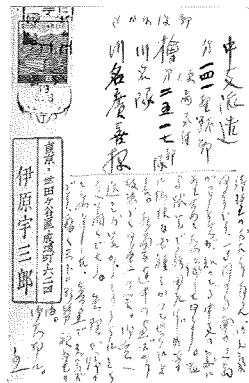
て来ました。真黒で元氣

です。暫く天下の形勢觀望の

由。

御大切に。

不一





③ 手紙(部分) 【資料目録2】

伊原が、留守宅の鉄右衛門と恵以に宛てた手紙。消印は難読だが、昭和十九年四月中に差し出されており、「廣喜君の居所決定次第御送り下され度、この前に一度皆様の御目にかけ度別便にて御送り申上ぐる次第に候」と、まだこの時点では戦地の廣喜と交信ができていなかったため留守宅に転送を依頼している。また、旗自体も伊原自身が準備したとある。

「皆少々酔ひ廻り居り」とあることから、酒宴の席上で回された様子うかがえる。また、寄せ書きの題材として酒に関するものが多いが、「酒と肴ばかりにてすっかり廣喜君を酒飲み扱ひにしたて居候も、実は皆が欲しくて自分の気持を描きたるものにて、後で大笑ひいたし申し候」と、和やかな雰囲気を感じさせられる。

川名鉄右衛門様

同 恵以子様

伊原宇三郎

拝啓

其後皆様御健祥と存じ上候

この度は廣喜君突然再度の応

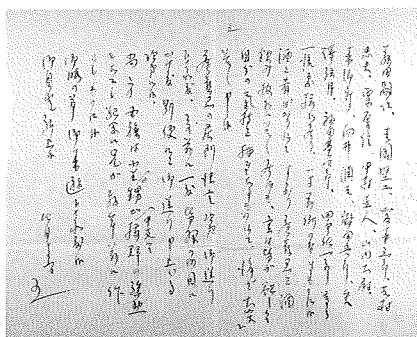
召にて又暫し御寂しくなること、

其点御同情に堪えず候、然し

今日の様な御時勢にては何事にも

個人の感情を挟む余地無之、唯々

国家の指し示す方向に諾々として



③

従ふことが御奉公にて候へば 暫くの御辛棒こそ祈り上ぐる次第に御座候。過日廣喜君御来訪の節、流石に中隊長殿として聊かも動ずる気色もなく、清々たる態度には大いに教へられたることに御座候。現地での活躍は既に定評あり。今度も

嚙かし大活躍、前には「高田会」、今度は「川名会」を作り、部下が廣喜君を慕ふことゝ目に見ゆる様に御座候

満洲と聞き居り候処、本日南京より

来信、一寸驚き入り候

軍機は計り知るべからず、唯何処へ参り

候とも川名君の度胸ならば大安心と

存じ居候。

出発前小生筆の国旗一流進呈

いたし置候ひしが、今一つ美術家

らしきものと存じ、先日陸軍美術

協会の理事達と他の数氏相集まり

候機を利用し、皆々勝手なものを

描ひて貰ひ候

皆少々酔ひ廻り居り、特に小生酔眼

朦朧として最後に描きし為実に

酔体なものとなり恐縮に候へ共大分  
面白き顔ぶれ故そのまま御送り  
申し上候

藤田嗣治、吉岡堅二、宮本三郎、吉村  
忠夫、栗原信、中村直人、山内大尉、  
本郷新、向井潤吉、鶴田吾郎、矢  
澤弦月、福田豊四郎、田中佐一郎等々  
一流処揃ひ居り。一寸前例のなきものに候  
酒と肴ばかりにてすつかり廣喜君を酒  
飲み扱ひにしたて居候も、実は皆が欲しくて  
自分の気持を描きたるものにて、後で大笑ひ  
いたし申し候  
廣喜君の居所決定次第御送り  
下され度、この前に一度皆様の御目に  
かけ度別便にて御送り申上ぐる  
次第に候。

尚この国旗は小生の甥が中支にて拔群の殊勲  
をたてし記念に兄が数年前に作  
りしものに候  
御暇の節御来遊下され度候  
御自愛願上候

四月十三日

宇



③③



③②

③② 写真【資料目録90】

伊原宇三郎と妻由紀しげ子と廣喜。軍服姿であるこ  
とから、戦地からの帰還時と推察される。伊原と廣喜  
の交友関係がしのばれる一枚である。昭和十五年頃カ

③③ 写真【資料目録90】

留守宅における恵以と恵美。壁に前記の寄せ書きが  
掲示されている。戦死後に遺族に送られた遺留品目録  
（「資料目録12」）の中に、「日章旗 式流」の記述が見られ  
るが、これが伊原が贈ったものと、この写真を撮影後  
に家族が戦地に送った陸軍美術協会からの二枚の旗  
であろうか。昭和十九年頃

戦地に着任してから、到着の知らせの挨拶状を内地  
の各所に送ったようである。その返信もいくつか残さ  
れている。

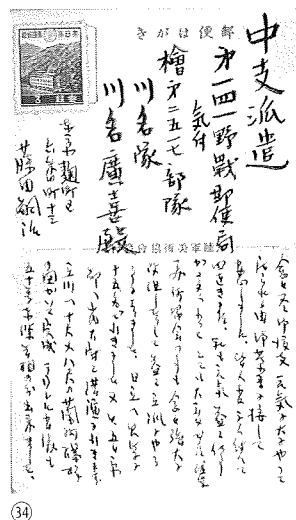
③④、③⑤ はがき【資料目録4】

洋画家の藤田嗣治からののはがき。五月三十日の日付  
である。藤田の近況として「蘭州爆撃の図」、ラウレル・  
フィリピン大統領や東條首相の肖像画と、多数の制作に取り掛かっている  
と記されている。自身の作品「神兵の救出到る」の印刷絵葉書を用い  
ている。この作品は昭和十九年に発表され、原画は東京国立近代美術館  
のアメリカ合衆国無期限貸与作品として保管されている。

愈々又々御渡支元氣に大にやつて居られる由御葉書に接して安心しました。皆んなによく伝えて置きました。私も元氣益々仕事が多くなつてとても大変です。陸軍美術協会の事も愈々強大に改組したりして益々立派にやる事になりました。日立へ見学に十五名で行きました又四五日京都へ山内大尉と講演に行きます。立川へ十尺×八尺の蘭州爆撃の図かいて完成ラウレル肖像も五十号東條首相の分出来ました。

益々武運長久御奮闘を祈る。

五月卅日



(34)



(35)

③⑥、③⑦ はがき 【資料目録5】

洋画家、宮本三郎からののはがき。消印は難読だが、昭和十九年五月と思われる。自身の作品「シンガポール英軍の降伏」の印刷絵葉書を用いている。この葉書は、昭和十八年十二月に発売された「大東亜戦争記念報国葉書第一輯」として発売されたもので、原画は郵政博物館に所蔵されている。<sup>(8)</sup>

御はがきをありがとうございます

存じます 益々御

元氣で軍務に

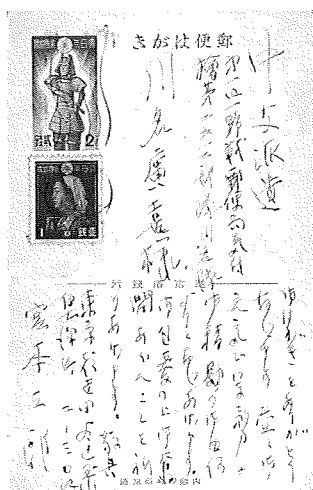
御精励の御由何

よりと存じあげます。

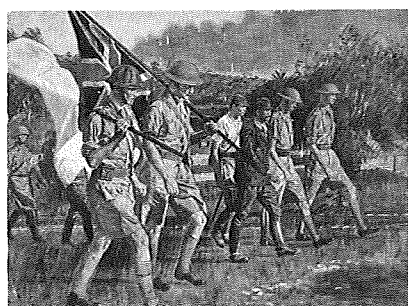
御自愛の上奮

闘あらんことを祈

りあげます。敬具



(36)



(37)

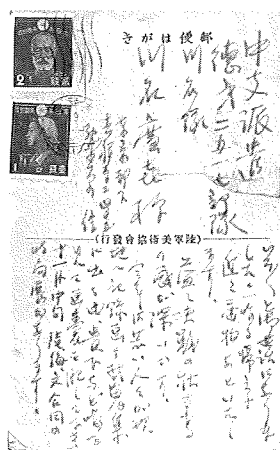
③⑧、③⑨ はがき 【資料目録6】

洋画家の栗原信からのはがき。消印は難読だが、昭和十九年十月と思われる。自身の作品「怒江作戦」の印刷絵葉書を用いている。この作品は昭和十九年に発表され、原画は東京国立近代美術館のアメリカ合衆国無期限貸与作品として保管されている。

いろいろと御世話になりました。一昨日帰京  
近々居物なといたし  
ます。

益々決戦の秋来る  
の感が深いです。

今年は若い人々が現  
地へ記録画々材蒐集  
に出る由、貴下など暇を  
見て画囊を肥して下さい  
十一月中旬陸、海、文合同の  
時局展があります。



③⑧



怒江作戦 栗原信

③⑨

④① 絵画 【資料目録105】

当館に寄贈された廣喜の作品は、スケッチブックや一枚ものなどで、



④①

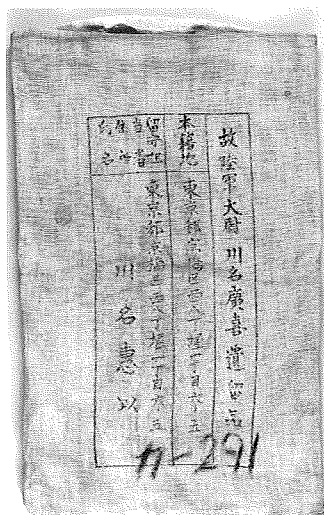
多くが従軍中の戦地の風景や、周辺の光景を題材にとったものである。ほとんどが毛筆で、ペンまたは鉛筆によるスケッチも含まれる。

その中の一枚で、『日■病院にて』と画題が記されている。兵站病院における看護師だと思われる。制作年不詳 ペン・チョーク・紙

④② 陸軍大尉川名廣喜遺留品明細書 【資料目録12】

昭和二十年一月に中国九江で戦死した、廣喜の遺留品を還送する際の明細書。すでに海上交通も困難な時期であるが、被服や私物などトランクと行李各一つが遺族の元へ届けられた。戦死者の遺留品は、遺骨同様に原隊で取りまとめられ、遺留品目録を付して封印されて内地の留守部隊に還送された後に遺族へ引き渡された。

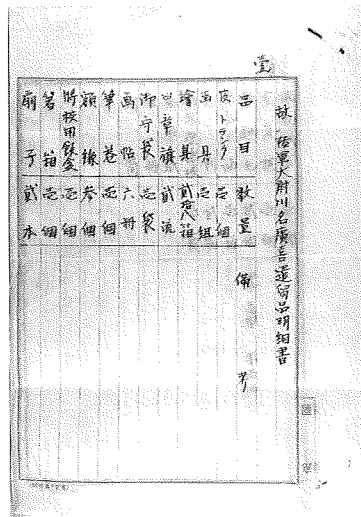
乗船が機雷に触れて沈没したために死亡したが、そのため居住地に置



④1

④1袋 【資料目録13】  
 廣喜の遺留品のなかでも水に濡れた形跡があるため、遺体が川から引き上げられた際に身に着けていたものが収納されていたと思われる。財布、万年筆、印鑑、お守り袋、襟章、毛抜き、楊枝が入ったままになっていた。

かれた荷物はそっくり残っていたようで、軍装品のほか、画材やスケッチ帳が含まれており、その一部が昭和館へ寄贈された資料である。



④1

断片的ではあるが、若くして戦死した川名廣喜という洋画家の足跡をたどることができた。これは、履歴書のような形の書類が残されていたため、現存する日記、辞令、新聞記事等をパズルのピースのように一つ一つの結び付ける作業であった。また、本文中に引用した書簡、新聞記事の翻刻は、学芸部資料係の財満幸恵と橋口佳緒理が担当した。

このような貴重な資料を寄贈していただき、資料とその背景について多大なご教示を与えてくれた瀬下恵美氏に感謝の意をささげます。

(学芸部資料係長 萩谷茂行)

#### 〔注〕

- (1) 東京都立城南中学校(旧制) 一期会編『川名廣喜遺作集』一九九〇年
- (2) 同書には「九江(揚子江入江)」とあるが、恵美によればこれは誤りであるとのことなので、訂正した。
- (3) 『少年倶楽部』昭和十七年十月号、同十七年十二月号
- (4) 恵美の教示による
- (5) ⑪～⑰の展覧会出品記録は、『昭和期美術展覧会出品目録』(東京文化財研究所 二〇〇六年)による
- (6) 昭和十九年九月■日 切り抜きのため掲載紙不詳
- (7) 独立行政法人国立美術館HP 「所蔵作品検索」による
- (8) 郵政博物館HP 「収蔵品のご紹介」による
- (9) 独立行政法人国立美術館HP 「所蔵作品検索」による



|     | 資料名                  | 点数  | 受取人                       | 発行年                       | 発行者・差出人              | 備考                          |
|-----|----------------------|-----|---------------------------|---------------------------|----------------------|-----------------------------|
| 79  | 南京英霊奉安所壁画壁彫絵葉書       | 1   |                           |                           | 西本願寺南京別院発行、文化奉公会美術部作 | 全9枚、たとう付き                   |
| 80  | 封筒（川名広喜用紙）           | 1   |                           |                           | 東京都立城南中学校長 星一雄       | （東東三、一九五）                   |
| 81  | 辞令（青森市立中学教授ヲ嘱託ス）     | 1   | 高田廣喜                      | 昭和十五年十月三十一日               | 青森県                  |                             |
| 82  | 辞令（嘱託ヲ解ク）            | 1   | 青森県立青森中学校教授嘱託 高田廣喜        | 昭和十六年三月三十一日               | 青森県                  |                             |
| 83  | 辞令（東京府へ出向ヲ命ス）        | 1   | 青森県師範学校教諭 高田廣喜            | 昭和十六年三月三十一日               | 青森県                  |                             |
| 84  | 辞令（青森県師範学校舎監ニ兼任ス）    | 1   | 青森県師範学校教諭 高田廣喜            | 昭和十五年十一月三十日               | 青森県                  |                             |
| 85  | 辞令（兼職を免ス）            | 1   | 青森県師範学校教諭兼青森県師範学校舎監 高田廣喜  | 昭和十六年三月三十一日               | 青森県                  |                             |
| 86  | 辞令（東京府立第二十一中学校教諭ニ任ス） | 1   | 青森県師範学校教諭兼舎監 陸軍中尉従七位 高田廣喜 | 昭和十六年三月三十一日               | 東京府                  |                             |
| 87  | 沙汰書                  | 1   | 陸軍歩兵中尉従七位 高田廣喜            | 昭和十五年四月二十九日               | 賞勲局総裁従三位勲一等 下條康麿     | 勲六等瑞宝章、裏面に「上奏原簿第二三〇回第一二六五頁」 |
| 88  | 感謝状（国防資材ノ献納）         | 1   | 従七位 川名廣喜                  | 昭和一七年七月二十九日               | 陸軍大臣 東條英機            |                             |
| 89  | アルバム                 | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 90  | 写真                   | 14  |                           |                           |                      |                             |
| 91  | 渡支雑感                 | 1   |                           | 2603年3月21日から              |                      |                             |
| 92  | 日誌                   | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 93  | 日誌                   | 1   |                           | 昭和19年2月19日から<br>昭和19年7月9日 |                      |                             |
| 94  | 新聞記事                 | 1   |                           |                           |                      | 一括、封筒付                      |
| 95  | スクラップブック             | 1   |                           |                           |                      | 雑誌表紙等                       |
| 96  | 写真                   | 12  |                           |                           |                      | 雑誌作画用資料                     |
| 97  | 文化日本(昭和17年11月)       | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 98  | 原稿「中支戦線点描」           | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 99  | スケッチブック（南京風景壺）       | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 100 | スケッチブック（揚子江点描）       | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 101 | スケッチブック（旅之記再征之途中）    | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 102 | スケッチブック（無題）          | 6   |                           |                           |                      |                             |
| 103 | 短冊                   | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 104 | 色紙                   | 1   |                           |                           |                      |                             |
| 105 | 絵                    | 6   |                           |                           |                      |                             |
|     | 総点数                  | 141 |                           |                           |                      |                             |

|    | 資料名           | 点数 | 受取人   | 発行年        | 発行者・差出人                    | 備考                                                                        |
|----|---------------|----|-------|------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 47 | 御買上品明細書       | 1  |       | 昭和17年1月29日 | 松屋呉服店                      | マツトの領収書                                                                   |
| 48 | 御買上品明細書       | 1  | 川名鉄衛門 | 昭和17年1月29日 | 松屋呉服店                      | 食卓の領収書                                                                    |
| 49 | 料金領収書         | 1  | 川名    | 昭和17年2月6日  | 盛京亭                        | 料理・日本酒の領収書                                                                |
| 50 | 領収書           | 1  | 川名    | 昭和17年2月2日  | 京橋弁松本店<br>玉井俊輔             |                                                                           |
| 51 | 領収証           | 1  | 佐貫屋   | 昭和17年1月31日 | 鶴田電気工業所                    | 電球等一式の領収書                                                                 |
| 52 | 領収書           | 1  | 加藤清吉  | 昭和17年1月    | 株式会社東京興信所                  | 昭和17年1月分報答料の領収書                                                           |
| 53 | 報答料請求書        | 1  | 加藤清吉  | 昭和17年1月    | 株式会社東京興信所                  | 昭和17年1月分報答料(高田廣喜・高田小太郎の二名分)                                               |
| 54 | 名刺            | 1  |       |            | 佐貫屋 川名商店 川名恵似子             |                                                                           |
| 55 | 名刺            | 1  |       |            | 佐貫屋 川名商店 川名恵似子             |                                                                           |
| 56 | 名刺            | 1  |       |            | 呂武第二五一〇部隊 陸軍中尉 川名廣喜        | 「昭和十九年十二月転任」「中支派遣呂武第二五一七部隊」の書込あり                                          |
| 57 | 名刺            | 1  |       |            | 呂武第二五一〇部隊 陸軍中尉 川名廣喜        |                                                                           |
| 58 | 名刺            | 1  |       |            | 陸軍美術協会会員 文化奉公会幹事 陸軍中尉 川名廣喜 |                                                                           |
| 59 | 名刺            | 1  |       |            | 陸軍美術協会会員 文化奉公会幹事 川名廣喜      | 裏面に風景画あり                                                                  |
| 60 | 名刺            | 1  |       |            | 支那派遣軍総司令部報道部 陸軍中尉 川名廣喜     | 裏面にメモあり                                                                   |
| 61 | 名刺            | 1  |       |            | 川名廣喜                       | 表面に「陸軍中尉 陸軍美術協会々員 文化奉公会幹事」、裏面に「疎開先(留守宅 千葉県君津郡港町一七六ノ二 妻川名恵似子 長女川名恵美)」の書込あり |
| 62 | 名刺            | 1  |       |            | 陸軍中尉 川名廣喜                  | 表面に「廬山警備隊長」、裏面に「中佐 菰田康明 康一」の書込あり                                          |
| 63 | 名刺            | 1  |       |            | 川名廣喜                       |                                                                           |
| 64 | 名刺            | 1  |       |            | 文化奉公会 川名廣喜                 |                                                                           |
| 65 | 名刺            | 1  |       |            | 文化奉公会 川名廣喜                 |                                                                           |
| 66 | 絵はがき(闘魂)      | 1  |       | 2603       |                            | 陸軍美術展覧会 川名廣喜作                                                             |
| 67 | 絵はがき(進撃)      | 1  |       | 二六〇一       |                            | 出征軍人美術家作品展覧会 高田廣喜作                                                        |
| 68 | 絵はがき(戦友)      | 1  |       | 2603       |                            | 第二回大東亜戦争美術展覧会出品 川名廣喜作                                                     |
| 69 | 絵はがき(戦友)      | 1  |       | 2603       |                            | 第二回大東亜戦争美術展覧会出品 川名廣喜作                                                     |
| 70 | 絵はがき(薄暮(攻撃))  | 1  |       | 2602       | 美術工芸会                      | 朝日新聞社主催大東亜戦争美術展覧会 川名廣喜画                                                   |
| 71 | 絵はがき(薄暮(攻撃))  | 1  |       | 2602       | 美術工芸会                      | 朝日新聞社主催大東亜戦争美術展覧会 川名廣喜画                                                   |
| 72 | 絵はがき(黎明(露営))  | 1  |       | 2602       | 美術工芸会                      | 朝日新聞社主催大東亜戦争美術展覧会 川名廣喜画                                                   |
| 73 | 絵はがき(洞底湖鷺進船団) | 1  |       | 二六〇三       |                            | 第二回大東亜戦争美術展覧会出品 川名廣喜作                                                     |
| 74 | 絵はがき(洞底湖鷺進船団) | 1  |       | 二六〇三       |                            | 第二回大東亜戦争美術展覧会出品 川名廣喜作                                                     |
| 75 | 絵はがき(前線へ)     | 1  |       |            | 陸軍美術協会発行                   | 高田廣喜筆                                                                     |
| 76 | 絵はがき(兵習作)     | 1  |       |            |                            | 決戦美術展覧会 川名廣喜                                                              |
| 77 | 絵はがき(出稼ぎの人)   | 1  |       |            |                            | 第四回一軌社展出品 高田廣喜作                                                           |
| 78 | 絵はがき          | 1  |       | 1938       |                            | H.TAKATA のサインあり                                                           |

川名廣喜寄贈資料目録

|    | 資料名                    | 点数 | 受取人        | 発行年                | 発行者・差出人      | 備考                              |
|----|------------------------|----|------------|--------------------|--------------|---------------------------------|
| 1  | 日の丸寄せ書き                | 1  |            |                    |              |                                 |
| 2  | 手紙                     | 1  | 川名鉄右衛門・恵以子 | 19. 4. ■消印         | 伊原宇三郎        |                                 |
| 3  | はがき                    | 1  | 川名廣喜       |                    | 伊原宇三郎        |                                 |
| 4  | はがき                    | 1  | 川名廣喜       |                    | 藤田嗣治         |                                 |
| 5  | はがき                    | 1  | 川名廣喜       |                    | 宮本三郎         |                                 |
| 6  | はがき                    | 1  | 川名廣喜       |                    | 栗原信          |                                 |
| 7  | はがき                    | 1  |            |                    |              | 川名廣喜葬儀相済ませ                      |
| 8  | メモ                     | 1  |            |                    |              | 主人作品疎開先、2枚                      |
| 9  | 身分証明書                  | 1  |            |                    | 東京府立第二十二中学校長 | 本校教員タルコトヲ証明ス                    |
| 10 | 美術家連盟会員証               | 1  |            | 昭和十七年六月廿九日         |              |                                 |
| 11 | 社団法人日本美術及工芸統制協会第式部正会員証 | 1  |            |                    |              |                                 |
| 12 | 故陸軍大尉川名廣喜遺留品明細書        | 1  |            |                    |              | 6枚綴り                            |
| 13 | 袋（故陸軍大尉川名廣喜遺留品）        | 1  |            |                    |              | 財布、万年筆、印鑑、お守り袋（3）、襟章（片方）、毛抜き、楊枝 |
| 14 | 矢立                     | 1  |            |                    |              |                                 |
| 15 | 花札                     | 1  |            |                    |              |                                 |
| 16 | はがき                    | 1  |            | 昭和十七年二月十二日         | 川名鉄右エ門       | 婚礼出席者への観劇会の案内                   |
| 17 | 案内                     | 3  |            | 昭和十七年二月十五日         | 川名鉄右衛門       | 戦時児債券封入について、観劇会参加者への案内          |
| 18 | メモ                     | 1  |            |                    |              | 席順について、「陸軍」の便箋                  |
| 19 | メモ（高田殿打合せノ件）           | 1  |            |                    |              | 「材木問屋萬富支店本多富久松」の便箋              |
| 20 | 写真                     | 1  |            |                    |              | 高田廣喜・川名恵似子、包紙あり                 |
| 21 | はがき                    | 1  | 川名鉄右衛門     | 17.1.28 から 17.1.31 |              | 結婚式への出欠確認のもの、35枚                |
| 22 | 荷物目録                   | 1  | 川名鉄右衛門     | 昭和十七年二月一日          | 高田廣喜         | 巻紙                              |
| 23 | 川名恵似子 祝品諸控 川名家         | 1  |            | 昭和一七年二月吉日          |              | ノート                             |
| 24 | 川名高田両家結婚式大宝恵           | 1  |            | 昭和一七年二月二日          |              | 冊子状、「日本橋区 帝国在郷軍人第七分会」の便箋        |
| 25 | 送付票                    | 1  | 川名鉄衛門      | 昭和 17 年 1 月 29 日   | 松屋呉服店        | 食卓・脱衣籠の領収書                      |
| 26 | 封筒                     | 1  | 大？         |                    | 町田絲店小売部      | ビロードハンドの領収書                     |
| 27 | 領収書綴り                  | 1  | 佐貫屋        | 17年2月2日            | 太陽交通株式会社     | 全4枚、タクシーの領収書                    |
| 28 | 領収書                    | 1  | 川名         | 一月三十一日             | 秋山広          | 内装の領収書                          |
| 29 | 料金領収証                  | 1  | 川名         | 17年2月1日            | ヤナセ衣装店       | 花嫁振袖一式10品、2月1日から3日9時までの一日分の領収書  |
| 30 | 手付金領収証                 | 1  | 川名         | 17年1月27日           | ヤナセ衣装店       | 花嫁振袖一式10品、2月1日から3日9時までの一日分の領収書  |
| 31 | 御買上品明細書                | 1  | 川名         | 昭和17年1月29日         | 松屋呉服店        | 脱衣籠の領収書                         |
| 32 | 領収書                    | 1  | 川名鉄右衛門     | 昭和十七年一月二十八日        | 官幣大社日枝神社々務所  | 結婚奉告祭費の領収書                      |
| 33 | 領収書                    | 1  | 佐貫や        | 一月三十一日             | 鳥福           | うな重の領収書                         |
| 34 | 領収書                    | 1  | 木村         | 昭和17年1月19日         | 堀呉服店         | 帯一式の領収書                         |
| 35 | 明細書                    | 1  | 川名高田       |                    | 幸楽           | 支那料理・日本酒・サイダー・ウイスキの領収書          |
| 36 | 明細書                    | 1  | 川名高田両家     | 昭和十七年二月二日          | 幸楽           | 支那料理・日本酒の領収書                    |
| 37 | 領収書綴り                  | 1  | 川名鉄右エ門     | 昭和17年1月            | 松屋呉服店        | レシート1・明細書2                      |
| 38 | 御買上品明細書                | 1  |            | 昭和17年1月31日         | 松屋呉服店        | 乱箱の領収書                          |
| 39 | 料金領収書                  | 1  | 川名         | 昭和17年1月30日         | 幸楽           | ■■■■■、日本酒の領収書                   |
| 40 | 領収書                    | 1  | 佐貫や        | 一月二十九日             | 幸寿司          | 寿司の領収書                          |
| 41 | 領収書                    | 1  | 佐貫や        | 二月三日               | 幸寿司          | 寿司の領収書                          |
| 42 | 領収書                    | 1  | 佐貫屋        | 昭和一七年二月十日          | 太陽交通株式会社     | 四枚綴りのタクシー領収書分                   |
| 43 | 請求書                    | 1  | 川名本店       | 昭和17年1月31日         | 黒川商店         | 着物一式の領収書                        |
| 44 | 領収書                    | 1  | 川名鉄右エ門     | 昭和十七年二月二日          | レート美容室       | 婚礼用化粧料并にかつら物賃料                  |
| 45 | 御納品書                   | 1  | 川名鉄右エ門     | 昭和17年1月29日         | 筆筈の松本        | 本箱・文机の領収書                       |
| 46 | 料金領収書                  | 1  | 川名高田       | 昭和17年2月2日          | 幸楽           | ■・日本酒の領収書                       |